

ANAホールディングス株式会社 説明会

2022年3月期 第1四半期決算

2021年7月30日

代表取締役社長

片野坂 真哉



©ANAHD2021

1

- ◎ 本日はお忙しい中、2022年3月期 第1四半期 決算説明の電話会議にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ◎ 7月12日から、4回目の「緊急事態宣言」が発令されましたが、ワクチン接種の進行に伴い、国内線の旅客需要は既に底打ちして、改善に向かっています。当社グループとしては、ANAとPeachの連携強化など、追加の対策も実施しながら、今後に回復していく需要を、着実に取り込んでいく方針です。
- ◎ 本日7月30日は、1971年に発生した「雫石事故」から、ちょうど50年目となります。安全は全ての経営基盤であり、私たちの絶対的な使命です。グループ一丸となって安全を堅持しながら、コロナ禍を乗り越えていきます。
- ◎ 最初に、スライドの4ページをご覧ください。

目次

1. 2021年度 第1四半期決算

| | |
|-----------------------|------|
| 決算概要 | P. 4 |
| 航空事業・事業別の動向（コロナ前との対比） | P. 5 |
| 第1四半期の実績（分析） | P. 6 |
| 外部環境と需要の見通し | P. 7 |
| 黒字化の達成に向けた追加の対応策 | P. 8 |

2. 2021年度 第1四半期決算（詳細）

| | |
|--------------|----------|
| 業績ハイライト | P. 10 |
| 連結決算概要 | |
| 経営成績 | P. 11 |
| 財政状態 | P. 12 |
| キャッシュフロー | P. 13-14 |
| セグメント別実績 | P. 15 |
| 航空事業 | |
| 収入・費用 | P. 17 |
| 営業利益 増減要因 | P. 18 |
| ANA国際旅客 | P. 19 |
| ANA国内旅客 | P. 20 |
| ANA国際貨物 | P. 21-22 |
| ANA国内貨物 | P. 23 |
| LCC | P. 24 |
| コロナ前との対比 | P. 25 |
| ノンエア事業 | |
| 航空事業以外のセグメント | P. 27 |
| 補足資料 | |
| 航空機数 | P. 28 |

1. 2021年度 第1四半期決算



決算概要

2021年度 第1四半期決算（連結）

| (億円) | 実績 | 前年差 | 前年比 |
|----------------------|-------|------|--------|
| 売上高 | 1,989 | +773 | +63.6% |
| 航空事業 | 1,701 | +748 | +78.5% |
| 営業費用 | 2,635 | △171 | △6.1% |
| 航空事業 | 2,377 | △113 | △4.6% |
| 営業利益 | △646 | +944 | - |
| 航空事業 | △676 | +861 | - |
| 経常利益 | △637 | +927 | - |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | △511 | +576 | - |
| EBITDA | △250 | +889 | - |

売上高・営業利益の前年比較
(第1四半期・連結)

- 前年比
 - 国内で「緊急事態宣言」による影響が続いた中でも、売上高は前年から増加
 - 「事業構造改革」の推進による費用削減効果により、営業損失を着実に改善
- 計画比
 - 貨物の増収とコスト削減の深掘りにより、営業損失を計画水準から大幅に圧縮

©ANAHD2021

4

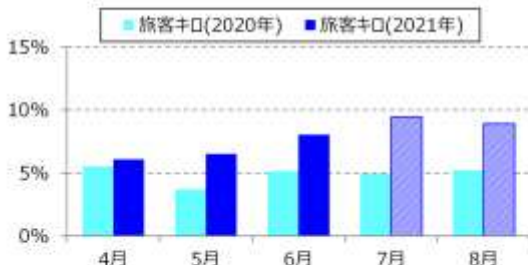
- ◎ 第1四半期決算の概要について、ご説明します。
- ◎ 売上高について、**旅客事業**では、**国際線**で、各国の渡航規制や、日本の入国者数制限が続いたほか、**国内線**でも、4月下旬から「緊急事態宣言」の影響を受けて、需要が鈍化しました。但し、コロナ禍での需要動向を踏まえて、運航便をきめ細かく調整したことなどにより、旅客事業の売上高は前年を上回りました。**国際線貨物事業**は、フレイターを活用して、単価の高い商材を積極的に取り込み、四半期ベースで過去最高の売上高となりました。
- ◎ 次に営業費用ですが、主として、機材関連費用や人件費などの固定費を削減したことにより、連結ベースの営業費用は、前年から171億円 減少しました。当第1四半期におけるANAの生産量は、旅客事業で前年同期の1.8倍、国際貨物で同2.4倍と、いずれも拡大しましたが、コスト構造を改革してきた効果が、費用面で実績となりました。
- ◎ これらの結果、売上高は、前年から773億円増加の1,989億円、営業損失は646億円、親会社株主に帰属する四半期純損失は511億円となりました。グラフにお示した通り、前年同期との比較では、売上高の前年差を上回る規模で、営業損失が改善しました。
- ◎ なお、4月末に発表した通期業績予想の前提と比べると、旅客収入は計画を下回りましたが、貨物の増収とコスト削減の深掘りにより、営業損失を計画水準から大幅に圧縮しました。
- ◎ 5ページをご覧ください。

航空事業・事業別の動向（コロナ前との対比）

グラフは全てコロナ前の実績(2019年4~8月)との対比、2021年7~8月は現時点の見通し

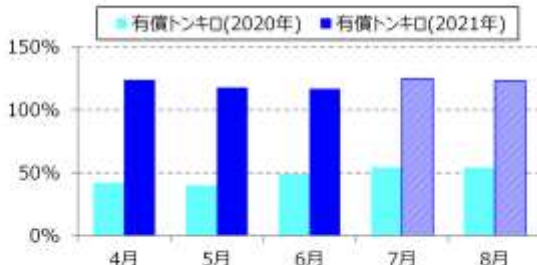
1. ANA国際旅客

貨物収入も考慮しながら、三国間需要などを取り込み



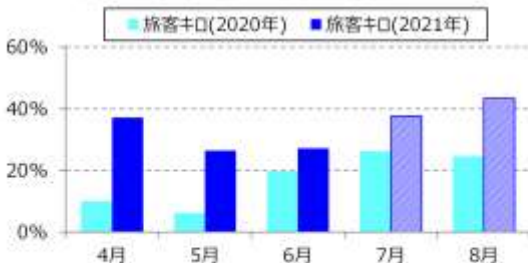
3. ANA国際貨物

フレイターを戦略的に活用、コロナ前を上回る実績が継続



2. ANA国内旅客

需要は6月上旬に底打ちして、回復・増加へ



*1 Visit Friends & Relatives

4. Peach国内線

新たに就航した路線を含めて、レジャー・VFR*1を取り込み



*2 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度の実績・見通しには特典航空券の利用旅客を含む

©ANAHD2021

5

- ◎ 航空事業における、事業別の動向です。
本ページのグラフは、いずれも、コロナ前の2019年実績と比較したものです。
- ◎ **ANA国際旅客**は、渡航制限の影響が続きましたが、
貨物収入も考慮しながら、三国間需要などを取り込みました。
- ◎ **ANA国内旅客**は、過去1年に巨る実績を基に、レベニューマネジメントを強化した結果、
第1四半期の実績は、各月とも前年を上回りました。
需要は6月上旬に底打ちしており、足元で回復基調が続いています。
- ◎ **ANA国際貨物**では、4月から、大型フレイターが、新たにロサンゼルス線に就航しました。
シカゴ線やバンコク線などの他路線も含めた需要動向に合わせて、
機動的に便数を調整するなど、フレイターを戦略的に活用しました。
また、旅客機を活用した貨物専用便も、第1四半期で合計3,500便を運航して、
需要を積極的に取り込んだ結果、有償トンキロは、コロナ前を上回る実績となりました。
- ◎ **Peach国内線**は、
2020年度中に、新たに10路線を開設した効果が現れています。
7月以降は、旅行や帰省などのニーズにより、ANAよりも先行して需要が回復する見通しです。
- ◎ 6ページをご覧ください。

第1四半期の実績（分析）

1. コスト削減額

| | 1Q実績 *1 |
|-------|---------|
| 変動費 | 1,025億円 |
| 固定費*2 | 630億円 |
| 合計 | 1,655億円 |

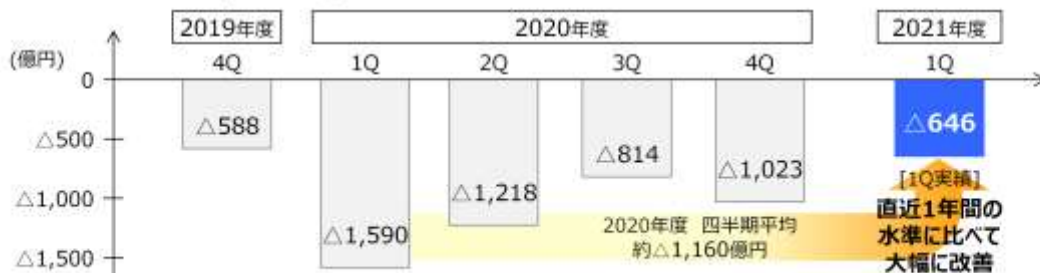
主な項目

- 1) 需要動向に応じた生産量の調整
- 2) 公租公課等の減免（空港使用料・航空機燃料税）
- 3) 保有機材数の削減による効果（減価償却費・整備費）
- 4) 賃金と雇用に関する施策の深掘り（人件費）
- 5) オペレーションコストの削減（外部委託費・整備費等）
- 6) 調達コスト改革・施設関連
- 7) 緊急コスト対策の継続・深掘り

*1 2019年度 第1四半期実績との比較

*2 雇用調整助成金の受給額を含む

2. 営業利益の推移（連結ベース）



©ANAHD2021

6

◎ 第1四半期の実績に関する分析です。

◎ 上段は、**コスト削減**の進捗です。

2019年度の実績と比べて、合計1,655億円を削減しました。

固定費については、2020年度末までに、大型機を中心とした機材の退役を進めたことで、減価償却費や整備費などを、大幅に圧縮しました。

◎ 人件費については、待遇面の見直しを進めた効果が現れました。

但し、従業員の雇用を守るとの考えは変わりません。

グループ全社で、従業員と役員との対話を強化しており、

私からも、全従業員に向けたメッセージを、定期的に発信しています。

今後の希望を分かち合いながら、コロナ禍を乗り越えるための機運を醸成しています。

◎ 下段は、コロナ影響後の、**営業利益の推移**です。

当第1四半期の営業損失は、前年の約4割の水準まで圧縮しました。

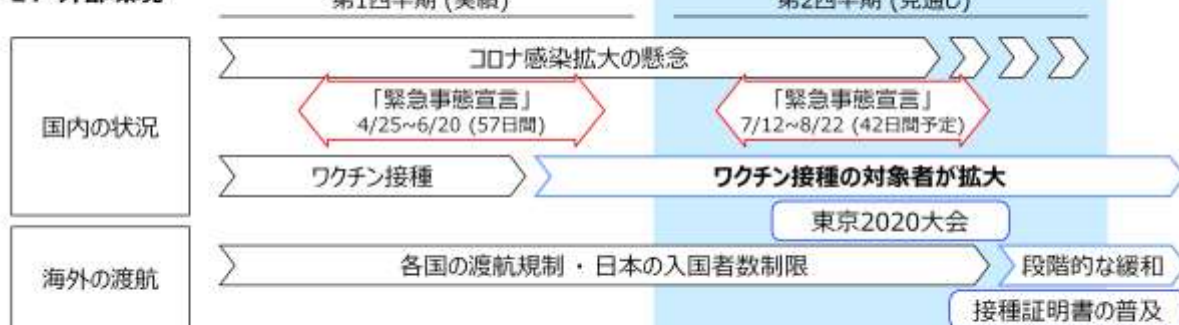
国内でコロナの感染が比較的落ち着き、

「GoToトラベルキャンペーン」の効果を享受した、2020年度の第3四半期に比べても、営業損失は改善しており、「事業構造改革」の成果が現れたと分析しています。

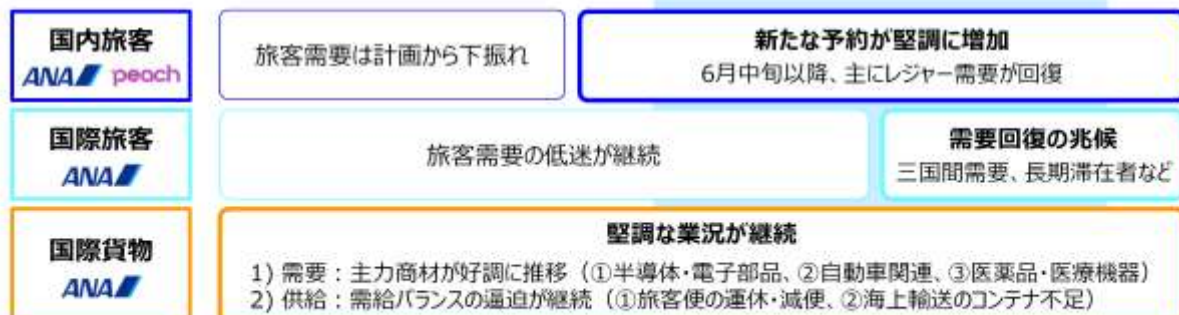
◎ 7ページをご覧ください。

外部環境と需要の見通し

1. 外部環境



2. 需要の見通し



©ANAHD2021

7

- ◎ 外部環境と需要の見通しです。
- ◎ 第1四半期は、4月25日からの「緊急事態宣言」による影響を受けましたが、国内では、高齢者を対象としたワクチン接種が進みました。第2四半期に入ってから、コロナ感染拡大の懸念は続いています。ワクチンの職域接種が始まり、ペースが早まったことで、対象者が拡大しています。
- ◎ このような状況において、**国内旅客**では、6月中旬から、主にレジャー需要が回復しており、8月下旬以降は、新たな予約が着実に積み上がっています。
- ◎ **国際旅客**について、海外との往来は、規制が続きますが、アジアと北米を結ぶ、三国間需要が動き始めているほか、駐在員などの長期滞在者による、定期的な移動も見込まれます。7月26日からは、各自治体でワクチン接種証明書の申請手続きも開始されており、業務渡航についても、回復の兆しが現れると期待しています。
- ◎ **国際貨物**について、航空貨物マーケットの動向として、半導体・電子部品や、自動車関連などの商材を中心に、需要が堅調に推移している上、海上輸送のコンテナ不足による影響も重なって、需給バランスの逼迫が続く見通しです。秋以降は、貨物需要がピーク期を迎えるため、堅調な業況が、年度末まで続く見込んでいます。
- ◎ 続いて、8ページをご覧ください。

黒字化の達成に向けた追加の対応策

1. 国内線

- 1) 柔軟な生産量調整の継続
 - ① 需要低迷：運休・減便の深掘り
 - ② 需要回復：提供座席数の機動的な拡大
- 2) グループ内の連携強化 8月下旬リリース予定
 - ① 冬ダイヤから運航便の移管を加速（ANA→Peach）

1. コストマネジメントの徹底とトップラインの向上を同時に追求
2. グループ全体で最適なネットワーク構築を開始

2. 国際線

- 1) 旅客便の一部で発着空港を変更（羽田→成田）
 - ① アジア＝北米間の接続需要をターゲット
- 2) 旺盛な貨物需要の取り込みを強化
 - ① 旅客機を活用した貨物専用便の運航
 - ② フライター就航都市の拡大と稼働率の向上

1. 便あたり収入の最大化（旅客便・貨物便）
2. 生産量・ネットワークの更なる拡大（貨物便）

3. その他

- 1) 各種の販促活動を実施
- 2) グループ外出向の継続・拡大、従業員との「対話」

1. 航空事業における増収、非航空収入の拡大
2. 総額人件費の更なる抑制

**柔軟かつ機動的に、あらゆる対策を実行
通期の最終利益で黒字転換を目指す**

- ◎ 当社グループにおける、追加の対応策について、ご説明します。
- ◎ **国内線**では、柔軟な生産量の調整を続けます。
需要が低迷する間は、運休・減便を深掘りする一方、
需要の回復局面では、提供座席数を機動的に拡大し、トップラインの向上を追求します。
また、10月末の冬ダイヤより、ANAからPeachに対する運航便の移管を加速する計画です。
各ブランドの顧客層に合わせた、最適なネットワークの構築に向けて、本格的な対応を開始します。
- ◎ **国際線**では、7月より、旅客便の一部を対象に、発着空港を羽田から成田に変更しました。
アジア＝北米間における、接続需要の取り込みを強化して、便あたり収入の最大化を図ります。
さらに、**貨物事業**では、旅客機を活用した貨物専用便の運航を続けるとともに、
フライター就航都市を拡大し、機材の稼働率を向上させて、増収につなげます。
- ◎ **その他の対応**として、タイムセールやキャンペーンの実施、エアバスA380型機による遊覧飛行など、
各種の販促活動を通して、航空と非航空の両面から、増収を目指します。
また、費用面の対応として、グループ外への出向については、当初計画から対象人数を拡大します。
出向者も含めて「対話」を続けながら、総額人件費の更なる抑制を図ります。
- ◎ これらの対応に留まることなく、今後も収入と費用の両面で、追加の施策を検討していきます。
緊急事態宣言や渡航規制など、人の移動に関する制限が続きますが、
自助努力として、あらゆる対策を実行し、通期の最終利益で黒字転換を目指します。
- ◎ 以上で、説明を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

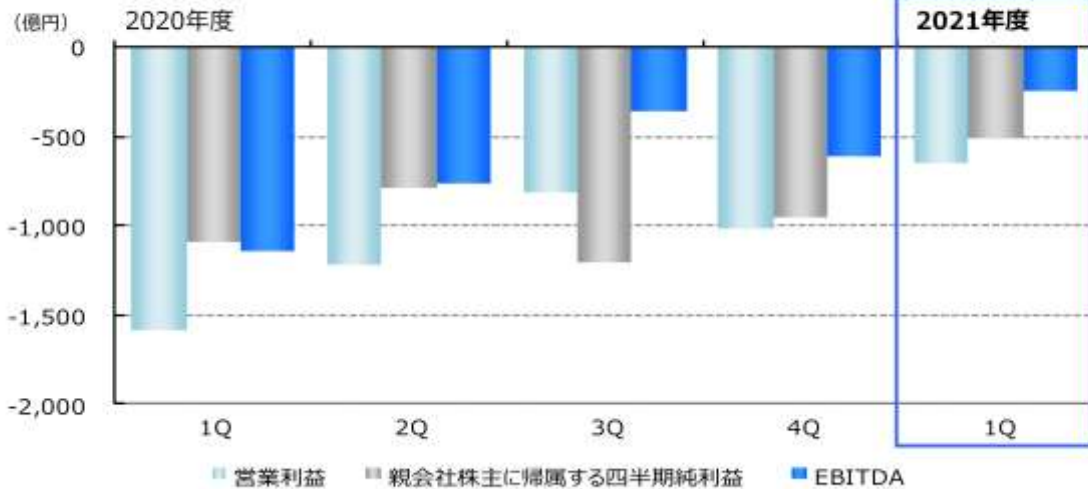
2. 2021年度第1四半期 決算（詳細）



当年度と前年度各四半期の業績比較

【2021年度 第1四半期 (連結)】

- 営業利益 : △ 646億円 (前年同期比 + 944億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : △ 511億円 (同 + 576億円)
- EBITDA : △ 250億円 (同 + 889億円)



経営成績

| (億円) | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 |
|------------------|-----------------|-----------------|-------|
| 売上高 | 1,216 | 1,989 | + 773 |
| 営業費用 | 2,806 | 2,635 | △ 171 |
| 営業利益 | △ 1,590 | △ 646 | + 944 |
| 営業利益率 (%) | - | - | - |
| 営業外損益 | 25 | 8 | △ 16 |
| 経常利益 | △ 1,565 | △ 637 | + 927 |
| 特別損益 | 3 | - | △ 3 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | △ 1,088 | △ 511 | + 576 |
| 四半期純利益 | △ 1,104 | △ 504 | + 599 |
| その他包括利益 | 165 | 24 | △ 140 |
| 包括利益 | △ 938 | △ 479 | + 458 |

財政状態

| (億円) | FY2020 期末 *4 | FY2021 第1四半期末 | 前年度 期末差 *5 |
|------------------|--------------------|------------------|----------------------|
| 総資産 | 32,078 (32,452) | 31,669 | △ 409 (△ 783) |
| 自己資本 | 10,072 (8,925) | 8,438 | △ 1,634 (△ 487) |
| 自己資本比率(%) | 31.4 (27.5) | 26.6 | △ 4.8pt (△ 0.9pt) |
| 有利子負債残高 | 16,554 | 16,548 | △ 6 |
| D/ELシオ (倍) | 1.6 (1.9) | 2.0 | + 0.3 (+ 0.1) |
| 手元流動性資金 *1 | 9,657 | 9,062 | △ 594 |
| 純有利子負債残高 *2 | 6,897 | 7,485 | + 588 |
| ネットD/ELシオ (倍) *3 | 0.7 (0.8) | 0.9 | + 0.2 (+ 0.1) |

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性

*3 ネットD/ELシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

*4 カッコ内は収益認識基準を適用後のFY2021期首数値

*5 カッコ内は収益認識基準を適用後のFY2021期首数値との差

キャッシュフロー

| (億円) | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 |
|-------------------------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 営業キャッシュフロー | △ 1,353 | △ 399 | + 953 |
| 投資キャッシュフロー | 276 | 2,985 | + 2,709 |
| 財務キャッシュフロー | 5,137 | △ 3 | △ 5,141 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 4,061 | 2,584 | △ 1,476 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,359 | 3,703 | } + 2,584 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 5,418 | 6,287 | |
| 減価償却費 | 450 | 395 | △ 54 |
| 設備投資額（固定資産のみ） | 388 | 290 | △ 98 |
| 実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く） | △ 1,753 | △ 594 | + 1,159 |
| EBITDA（営業利益＋減価償却費） | △ 1,140 | △ 250 | + 889 |
| EBITDAマージン（%） | - | - | - |

【参考】実質フリーキャッシュフローの推移



セグメント別実績

| (億円) | | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 |
|------|--------|-----------------|-----------------|-------|
| 売上高 | 航空事業 | 953 | 1,701 | + 748 |
| | 航空関連事業 | 598 | 533 | △ 65 |
| | 旅行事業 | 31 | 91 | + 60 |
| | 商社事業 | 197 | 191 | △ 5 |
| | その他 | 92 | 85 | △ 6 |
| | 調整額 | △ 656 | △ 614 | + 42 |
| | 合計（連結） | 1,216 | 1,989 | + 773 |
| 営業利益 | 航空事業 | △ 1,537 | △ 676 | + 861 |
| | 航空関連事業 | 8 | 51 | + 43 |
| | 旅行事業 | △ 27 | △ 1 | + 25 |
| | 商社事業 | △ 13 | △ 1 | + 12 |
| | その他 | 6 | 3 | △ 2 |
| | 調整額 | △ 26 | △ 21 | + 4 |
| | 合計（連結） | △ 1,590 | △ 646 | + 944 |

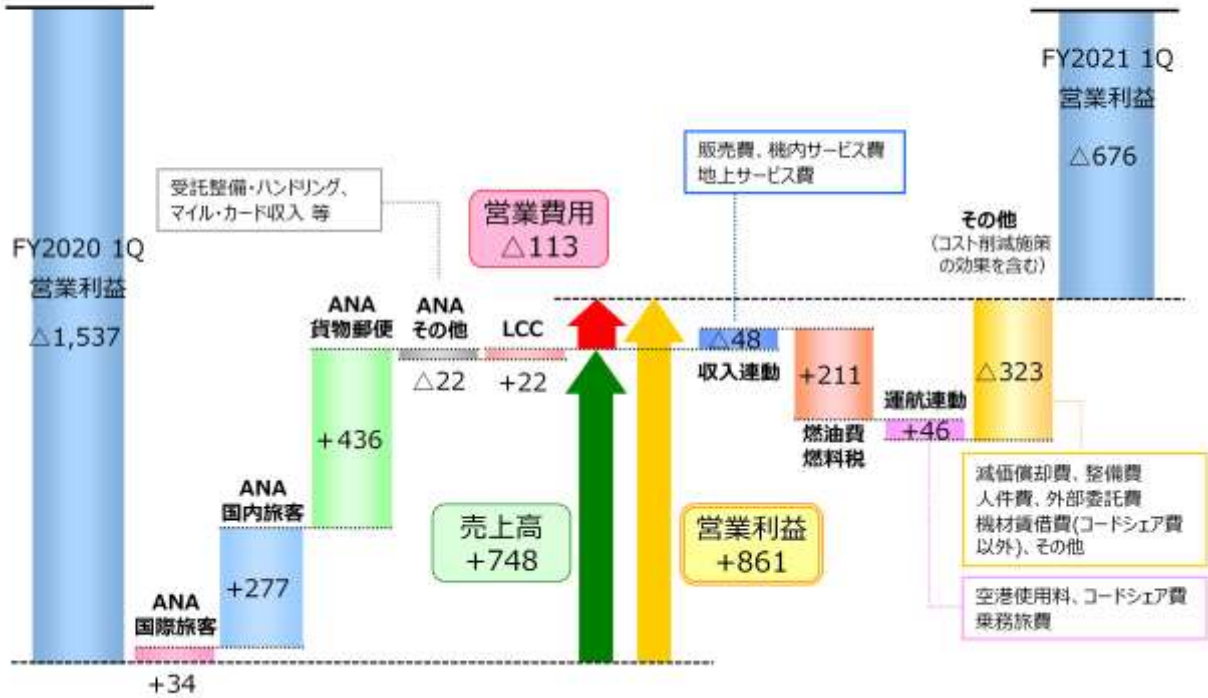
Intentionally Left Blank

収入・費用

| | | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 |
|---------------------|----------|-----------------|-----------------|-------|
| (億円) | | | | |
| 売上高 | ANA | | | |
| | 国際旅客 | 95 | 129 | + 34 |
| | 国内旅客 | 224 | 502 | + 277 |
| | 貨物郵便 | 299 | 735 | + 436 |
| | その他 | 316 | 293 | △ 22 |
| LCC | 17 | 39 | + 22 | |
| 合計 | 953 | 1,701 | + 748 | |
| 営業費用 | 燃油費・燃料税 | 153 | 365 | + 211 |
| | 空港使用料 | 73 | 90 | + 16 |
| | 航空機材賃借費 | 258 | 267 | + 9 |
| | 減価償却費 | 432 | 353 | △ 79 |
| | 整備部品・外注費 | 279 | 190 | △ 88 |
| | 人件費 | 423 | 377 | △ 45 |
| | 販売費 | 100 | 57 | △ 42 |
| | 外部委託費 | 474 | 454 | △ 19 |
| | その他 | 295 | 220 | △ 75 |
| | 合計 | 2,490 | 2,377 | △ 113 |
| | 営業利益 | △ 1,537 | △ 676 | + 861 |
| EBITDA (営業利益+減価償却費) | △ 1,105 | △ 322 | + 782 | |
| EBITDAマージン (%) | - | - | - | |

営業利益 増減要因

(億円)



ANA国際旅客

| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年比(%) |
|-------------------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 座席キロ(百万) | 2,365 | 4,514 | + 90.8 |
| 旅客キロ(百万)*1 | 619 | 892 | + 43.9 |
| 旅客数(千人)*1 | 91 | 131 | + 43.4 |
| 座席利用率(%) *1 | 26.2 | 19.8 | △ 6.4pt*2 |
| 旅客収入(億円)*1 | 95 | 129 | + 36.5 |
| ユニットレベニュー(円)*1 (旅客収入/座席キロ) | 4.0 | 2.9 | △ 28.5 |
| イールド(円)*1 (旅客収入/旅客キロ) | 15.3 | 14.5 | △ 5.2 |
| 単価(円)*1 (旅客収入/旅客数) | 103,795 | 98,752 | △ 4.9 |

*1 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

*2 座席利用率のみ前年差

ANA国内旅客

| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年比(%) |
|---------------------------------|-----------------|-----------------|------------|
| 座席キロ (百万) | 3,939 | 6,980 | + 77.2 |
| 旅客キロ (百万) *1 | 1,176 | 2,981 | + 153.5 |
| 旅客数 (千人) *1 | 1,278 | 3,200 | + 150.3 |
| 座席利用率 (%) *1 | 29.9 | 42.7 | + 12.9pt*2 |
| 旅客収入 (億円) *1 | 224 | 502 | + 123.5 |
| ユニットレベニュー (円) *1 (旅客収入/座席キロ) | 5.7 | 7.2 | + 26.2 |
| イールド (円) *1 (旅客収入/旅客キロ) | 19.1 | 16.8 | △ 11.8 |
| 単価 (円) *1 (旅客収入/旅客数) | 17,565 | 15,686 | △ 10.7 |

*1 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

*2 座席利用率のみ前年差

ANA国際貨物（ペリー+フレイター）

| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年比(%) |
|---------------------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 有効貨物トンキロ（百万） | 689 | 1,652 | + 139.5 |
| 有償貨物トンキロ（百万） | 451 | 1,233 | + 173.2 |
| 貨物輸送重量（千トン） | 98 | 233 | + 135.6 |
| 貨物重量利用率（%） | 65.5 | 74.7 | + 9.2pt*1 |
| 貨物収入（億円） | 254 | 660 | + 159.5 |
| ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ） | 36.9 | 40.0 | + 8.3 |
| イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ） | 56.3 | 53.5 | △ 5.0 |
| 重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量） | 257 | 283 | + 10.1 |

*1 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

本表のデータは、P.21記載実績の内数

| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年比(%) |
|---------------------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 有効貨物トンキロ（百万） | 350 | 569 | + 62.3 |
| 有償貨物トンキロ（百万） | 225 | 393 | + 74.3 |
| 貨物輸送重量（千トン） | 56 | 99 | + 74.8 |
| 貨物重量利用率（%） | 64.4 | 69.2 | + 4.8pt*1 |
| 貨物収入（億円） | 126 | 235 | + 86.2 |
| ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ） | 36.1 | 41.4 | + 14.7 |
| イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ） | 56.0 | 59.8 | + 6.8 |
| 重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量） | 223 | 237 | + 6.5 |

*1 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国内貨物

| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年比(%) |
|----------------------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 有効貨物トンキロ (百万) | 94 | 196 | + 107.8 |
| 有償貨物トンキロ (百万) | 39 | 65 | + 64.0 |
| 貨物輸送重量 (千トン) | 35 | 56 | + 60.9 |
| 貨物重量利用率 (%) | 42.3 | 33.4 | △ 8.9pt*1 |
| 貨物収入 (億円) | 36 | 59 | + 64.3 |
| ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ) | 38.1 | 30.1 | △ 20.9 |
| イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ) | 90.1 | 90.2 | + 0.2 |
| 重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量) | 102 | 104 | + 2.1 |

*1 貨物重量利用率のみ前年差

LCC (Peach Aviation)

| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年比(%) |
|-----------------------------|-----------------|-----------------|------------|
| 座席キロ (百万) | 559 | 1,240 | + 121.7 |
| 旅客キロ (百万) | 197 | 580 | + 193.8 |
| 旅客数 (千人) | 173 | 498 | + 186.5 |
| 座席利用率 (%) | 35.3 | 46.8 | + 11.5pt*1 |
| 売上高 (億円) *2 | 17 | 39 | + 128.5 |
| ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ) | 3.1 | 3.2 | + 3.1 |
| イールド (円) (売上高/旅客キロ) | 8.8 | 6.9 | △ 22.2 |
| 単価 (円) (売上高/旅客数) | 10,013 | 7,986 | △ 20.2 |

*1 座席利用率のみ前年差

*2 売上高に付帯収入を含む

航空事業 コロナ前との対比

FY2021 第1四半期実績

| 2019年度比(%)*1 | ANA国際旅客 | ANA国内旅客 | LCC *2 |
|--------------|---------|---------|--------|
| 座席キロ | △ 73.7 | △ 52.8 | △ 56.8 |
| 旅客キロ *3 | △ 93.1 | △ 69.9 | △ 76.4 |
| 旅客数 *3 | △ 94.8 | △ 70.5 | △ 74.3 |

| 2019年度比(%)*1 | ANA国際貨物 | ANA国内貨物 |
|--------------|---------|---------|
| 有効貨物トンキロ | △ 7.9 | △ 54.2 |
| 有償貨物トンキロ | + 19.3 | △ 29.9 |
| 貨物輸送重量 | + 9.2 | △ 36.2 |

*1 コロナ前(2019年4月~6月実績)との比較

*2 2019年度実績はPeach Aviationとバニラエアの合計

*3 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

Intentionally Left Blank

航空事業以外のセグメント

| (億円) | 航空関連事業 | | | 旅行事業 | | |
|---------------------|-----------------|-----------------|---------|-----------------|-----------------|------|
| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 |
| 売上高 | 598 | 533 | △ 65 | 31 | 91 | + 60 |
| 営業利益 | 8 | 51 | + 43 | △ 27 | △ 1 | + 25 |
| 減価償却費 | 12 | 12 | △ 0 | 1 | 0 | △ 0 |
| EBITDA (営業利益+減価償却費) | 20 | 63 | + 42 | △ 25 | △ 1 | + 24 |
| EBITDAマージン(%) | 3.5 | 11.9 | + 8.5pt | - | - | - |

| | 商社事業 | | | その他 | | |
|---------------------|-----------------|-----------------|------|-----------------|-----------------|---------|
| | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 | FY2020 第1四半期 | FY2021 第1四半期 | 前年差 |
| 売上高 | 197 | 191 | △ 5 | 92 | 85 | △ 6 |
| 営業利益 | △ 13 | △ 1 | + 12 | 6 | 3 | △ 2 |
| 減価償却費 | 3 | 3 | △ 0 | 0 | 1 | + 0 |
| EBITDA (営業利益+減価償却費) | △ 10 | 1 | + 12 | 7 | 4 | △ 2 |
| EBITDAマージン(%) | - | 1.0 | - | 7.7 | 5.6 | △ 2.0pt |

航空機数

| | 合計 | | | | | 退役済み機材*1を除く | | |
|--------------------------------|--------------|------------------|------------|------------|------------|--------------|------------------|------------|
| | FY2020 期末 | FY2021 第1四半期末 | 前年度 期末差 | 保有機数 | リース機数 | FY2020 期末 | FY2021 第1四半期末 | 前年度 期末差 |
| Airbus A380-800 | 2 | 2 | - | 2 | - | 2 | 2 | - |
| Boeing 777-300/-300ER | 30 | 25 | △ 5 | 16 | 9 | 20 | 20 | - |
| Boeing 777-200/-200ER | 14 | 14 | - | 10 | 4 | 12 | 12 | - |
| Boeing 777-F | 2 | 2 | - | 2 | - | 2 | 2 | - |
| Boeing 787-10 | 2 | 2 | - | 2 | - | 2 | 2 | - |
| Boeing 787-9 | 36 | 37 | + 1 | 31 | 6 | 36 | 37 | + 1 |
| Boeing 787-8 | 36 | 36 | - | 31 | 5 | 36 | 36 | - |
| Boeing 767-300/-300ER | 21 | 20 | △ 1 | 20 | - | 20 | 20 | - |
| Boeing 767-300F/-300BCF | 9 | 9 | - | 6 | 3 | 9 | 9 | - |
| Airbus A321-200neo | 17 | 17 | - | - | 17 | 17 | 17 | - |
| Airbus A321-200 | 4 | 4 | - | - | 4 | 4 | 4 | - |
| Airbus A320-200neo | 11 | 11 | - | 11 | - | 11 | 11 | - |
| Airbus A320-200 | 3 | 3 | - | - | 3 | 3 | 0 | △ 3 |
| Boeing 737-800 | 39 | 39 | - | 24 | 15 | 39 | 39 | - |
| Boeing 737-700 | 5 | 2 | △ 3 | 2 | - | 4 | 0 | △ 4 |
| De Havilland Canada DASH 8-400 | 24 | 24 | - | 24 | - | 24 | 24 | - |
| ANA 計 | 255 | 247 | △ 8 | 181 | 66 | 241 | 235 | △ 6 |
| Airbus A320-200neo | 3 | 4 | + 1 | - | 4 | 3 | 4 | + 1 |
| Airbus A320-200 | 35 | 33 | △ 2 | - | 33 | 30 | 30 | - |
| Peach Aviation 計 | 38 | 37 | △ 1 | - | 37 | 33 | 34 | + 1 |
| グループ 計 | 293 | 284 | △ 9 | 181 | 103 | 274 | 269 | △ 5 |

*1 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材

(Memo)

(Memo)

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で
 世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp